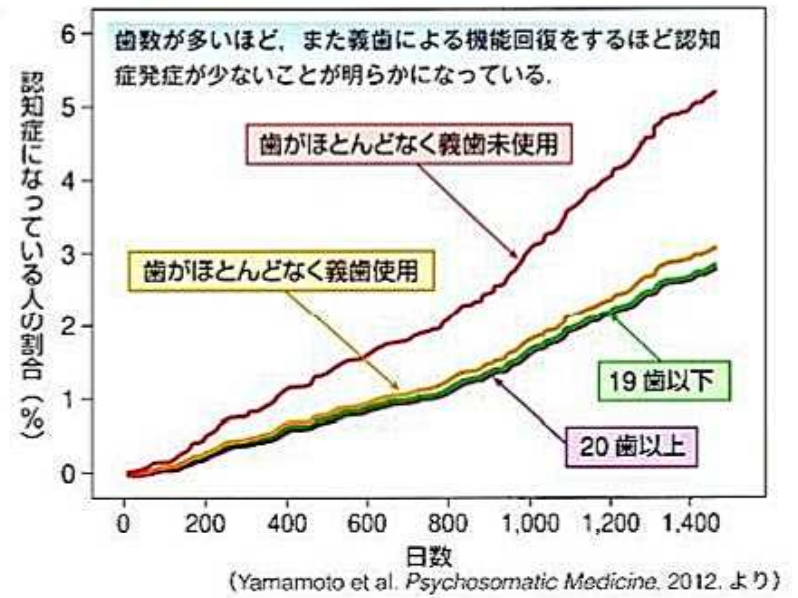


アルツハイマー病の原因に 噛み合わせの悪さが関係。

噛み合わせ異常のラットは正常のラットに比べて、アルツハイマー病の原因といわれるたんぱく質・アミロイドβの蓄積量が約3倍に増加。

歯数・義歯使用と認知症の関係



歯が無くなっても、入れ歯を使用していると認知症を予防できる。

咀嚼がうまくできないことによる学力低下などが問題となっているように、歯の噛み合わせは身体全体の健康に関わりを持つと言われている。このたび、認知症の一種であるアルツハイマー病の原因と歯の噛み合わせの悪さを関連づける実験成果が発表された。

岡山大学院医歯薬総合研究科の森田学教授と江國大輔助教らの研究グループは、歯が少なかったり、噛み合わせが悪かったりすると、記憶障害を引き起こしやすくなるという既存の研究結果に着目。アルツハイマー病と歯の噛み合わせとの関係を明らかにする狙いで実験を開始した。結果、ラットによる実験で、噛み合わせに異常があると、

アルツハイマー病の原因といわれるたんぱく質・アミロイドβが脳の海馬で増殖することを証明。ラットの奥歯を削った噛み合わせ「異常群」のアミロイドβの量は、「正常群」の約3倍に増加していることが確認された。また、「異常群」を4週間後に治療した「治療群」は「正常群」とほぼ同量だったという。噛み合わせを改善することで、アミロイドβの量は減少するとみられ、人間も歯の治療によってアルツハイマー病が改善する可能性があることが示された。

今後も患者数が増えると予測されているアルツハイマー病であるだけに、その治療や予防に役立てられる成果として注目が集まる。

お口の健康は全身の健康と深い関係があります

お口の健康は寿命の延伸にもつながります。

